

医療機関の決算書の見方

～ 知っておくべき基礎知識 ～

本レポートの骨子

病医院の会計とは、病医院が医業活動を通して売上げを上げたり、仕入れをしたり、従業員に給料を払ったり、家賃を払ったりという、病医院の一連の行為を記録すること。すなわち、お金を通じて、病医院の活動を記録することです。

イメージしやすい例を挙げれば、「お小遣い帳」や「家計簿」も立派な会計です。「お小遣い帳」や「家計簿」を見れば、お金を通じて、その人やその家計の活動が記録されていることがわかると思います。「今月は、少し飲みに行き過ぎた」とか「先月は、家族で旅行に行った」など、お金を何に使ったのか、いくら使ったのかをきちんと記録すれば、その人やその家計の活動が現れてくるはずです。

病医院の会計も全く同じ発想です。お金を通じた病医院の活動記録と考えて下さい。会計は、お金を通じた病医院の活動記録ですので、会計を理解するということは、病医院活動を理解することに繋がります。「そうか...この病医院はこんな部分にお金を使い、活動しているのか。」「あの病医院は、去年に比べて、ここの部分の活動を縮小したのだな。」など、病医院がどのように活動しているのかを理解することができるようになります。

そして、最終的には、会計を通じて、病医院が抱える問題点や病医院の強み、今後向かっていくべき方向性などを把握することができるようになります。決算書の仕組み、貸借対照表・損益計算書の関係と利益・キャッシュフローが一致しない原因、実際に決算書はどこに注目して見るとよいのかというチェックポイントにいたるまでを解説いたします。

2008年12月15日
Healthcare note
(No.08-39)

税理士法人
山田&パートナーズ
医療事業部
税理士 高橋 琴代

野村證券株式会社
法人企画部